

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第 1793 号	氏名	森山 伸吾
論文審査担当者		主査教授	下川 功
		副査教授	上谷 雅孝
		副査教授	酒井 英樹
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、臨床的に評価方法が確立されていなかった、子宮頸癌の予後因子としての腫瘍容積と腫瘍内微小血管密度の評価方法を示し、その有用性を明らかにしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>術式、臨床進行期による症例の選択、顕微鏡下における腫瘍サイズの計測と容積の近似は妥当な方法で行われていた。血管内皮マーカーの免疫染色切片を用いて、コンピュータを用いた画像解析を行い、腫瘍内微小血管密度を定量的に解析した点は評価できる。各因子と予後の相関も適切な統計処理が行われていた。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記の方法で解析した結果、腫瘍の容積と腫瘍内微小血管密度が独立して予後と相関することを明らかにした。両者を組み合わせた評価は、術後療法の選択に有用な情報を提供することを示唆した。今後、画像診断を組み合わせ、術前の客観的評価が可能となれば、子宮頸癌患者の予後の改善に寄与することが期待される。</p>			
<p>以上のように、本論文は子宮頸癌の予後因子の評価法を示した点で、婦人科腫瘍学における貢献が大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			